

# 令和6年度ふくしま学力調査結果について

郡山市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### (2) 調査内容

#### ① 児童生徒に対する調査

##### a. 教科に関する調査

- 小学校・義務教育学校前期課程：国語、算数
- 中学校・義務教育学校後期課程：国語、数学

##### b. 質問調査

- 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

#### ② 学校質問調査（Webシステムより回答）

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### (3) 調査対象

① 小学校・義務教育学校前期課程 51 校 第4学年～第6学年（児童 7,593 名）

② 中学校・義務教育学校後期課程 27 校 第1・2学年、第7・8学年（生徒 4,943 名）

## 2 調査結果の公表

### (1) 各教科における平均正答率と学力のレベル

### (2) 各教科における令和5年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合

### (3) 児童生徒質問紙調査の回答と学力階層との相関関係

#### 【学力のレベルについて】

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断している。学力は、レベル1からレベル12までのレベルで表されている。各学年の測定は、小学4年生であれば、レベル1からレベル7のように7レベルの間で行っている。また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスマートステップで「学力の伸び」が分かるようになっている。児童生徒には、学力のレベルはこの小さな層で分けた1-Cから12-Aまでの36段階で提示される。

#### 【学力のレベル一覧】

	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
高 ↑ 学 力 ↓ 低	レベル12					A B C
	レベル11				A B C	A B C
	レベル10			A B C	A B C	A B C
	レベル9		A B C	A B C	A B C	A B C
	レベル8	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
	レベル7	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
	レベル6	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
	レベル5	A B C	A B C	A B C	A	
	レベル4	A B C	A B C	A B C		
	レベル3	A B C	A B C			
	レベル2	A B C				
	レベル1	A B C				

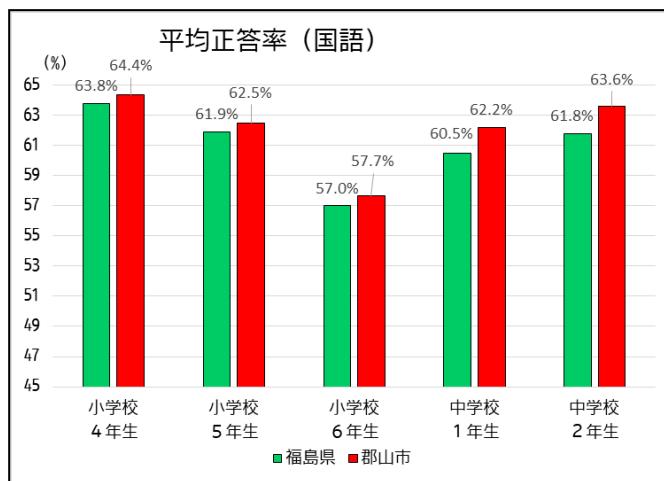
※ 福島県は中学3年生の実施なし

### 3 調査結果

(1) 各教科における平均正答率と学力のレベル

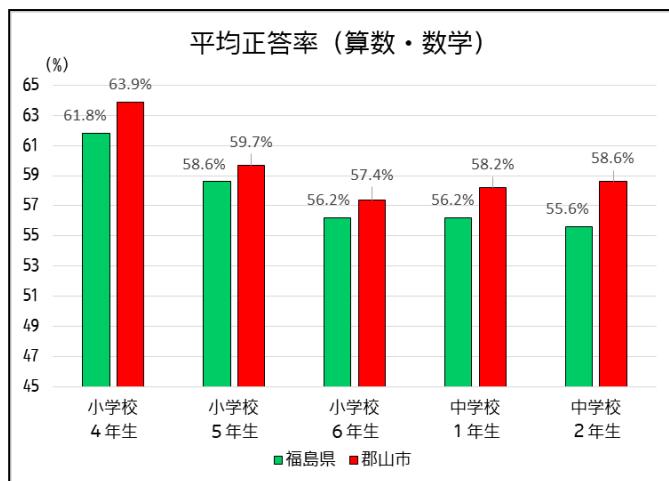
#### 【国語】

国語		小学校 4年生	小学校 5年生	小学校 6年生	中学校 1年生	中学校 2年生
福島県	平均正答率	63.8%	61.9%	57.0%	60.5%	61.8%
	学力のレベル	6-C	6-A	7-B	8-C	8-B
郡山市	平均正答率	64.4%	62.5%	57.7%	62.2%	63.6%
	学力のレベル	6-B	7-C	7-B	8-B	8-B
平均正答率の比較 (郡山市-福島県の値)		0.6	0.6	0.7	1.7	1.8



#### 【算数・数学】

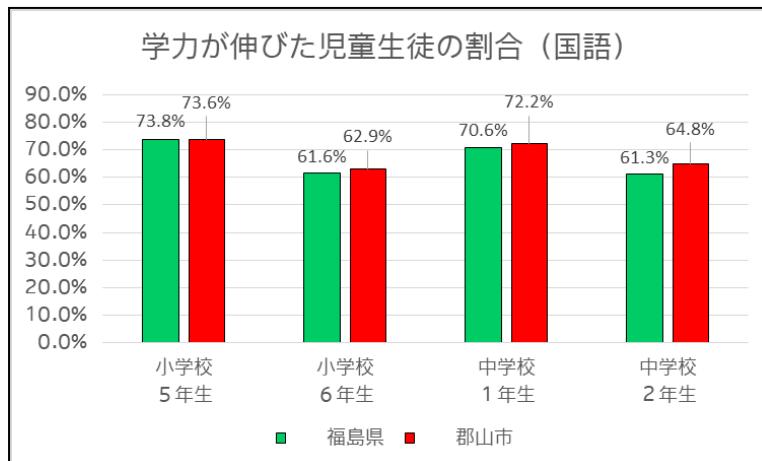
算数・数学		小学校 4年生	小学校 5年生	小学校 6年生	中学校 1年生	中学校 2年生
福島県	平均正答率	61.8%	58.6%	56.2%	56.2%	55.6%
	学力のレベル	5-C	5-A	6-B	7-C	7-A
郡山市	平均正答率	63.9%	59.7%	57.4%	58.2%	58.6%
	学力のレベル	5-B	5-A	6-A	7-B	8-C
平均正答率の比較 (郡山市-福島県の値)		2.1	1.1	1.2	2	3



(2) 各教科における令和5年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合

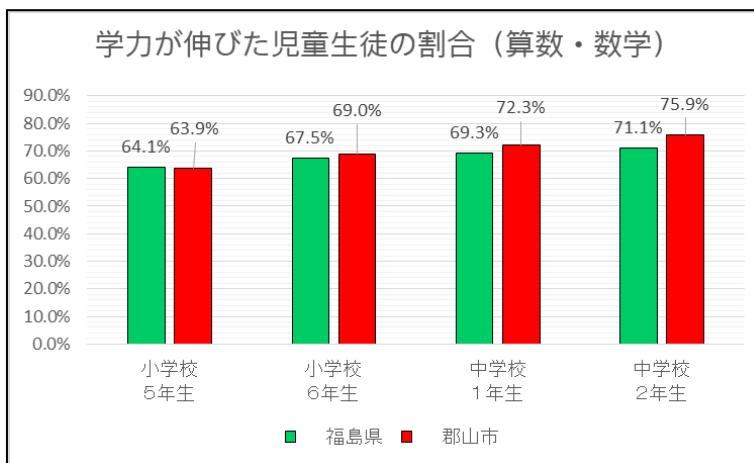
【国語】

国語	小学校 5年生	小学校 6年生	中学校 1年生	中学校 2年生
福島県	73.8%	61.6%	70.6%	61.3%
郡山市	73.6%	62.9%	72.2%	64.8%
県との比較 (郡山市-福島県の値)	-0.2	1.3	1.6	3.5



【算数・数学】

算数・数学	小学校 5年生	小学校 6年生	中学校 1年生	中学校 2年生
福島県	64.1%	67.5%	69.3%	71.1%
郡山市	63.9%	69.0%	72.3%	75.9%
県との比較 (郡山市-福島県の値)	-0.2	1.5	3.0	4.8



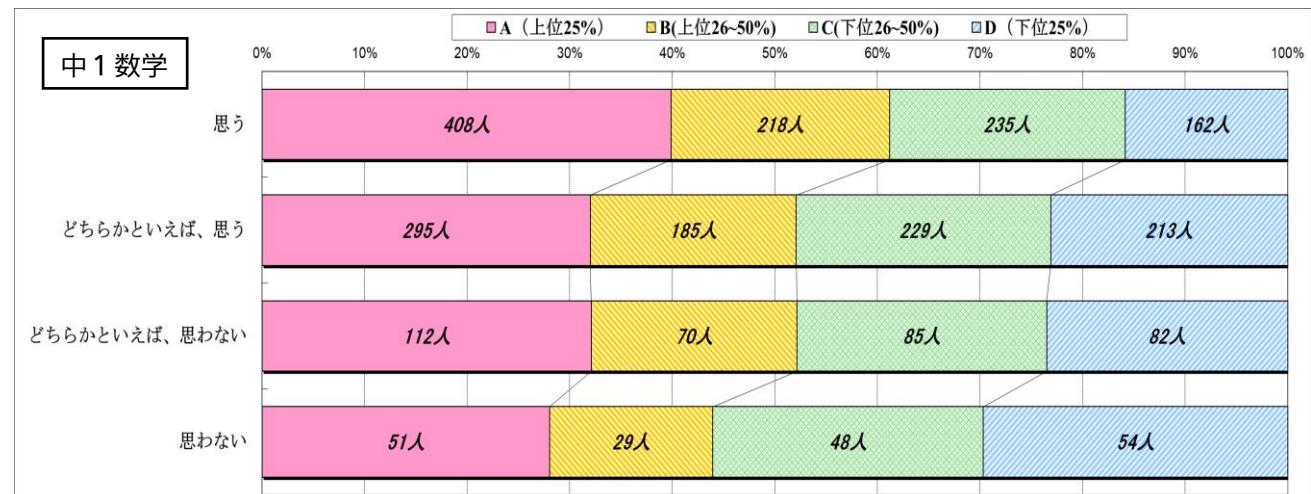
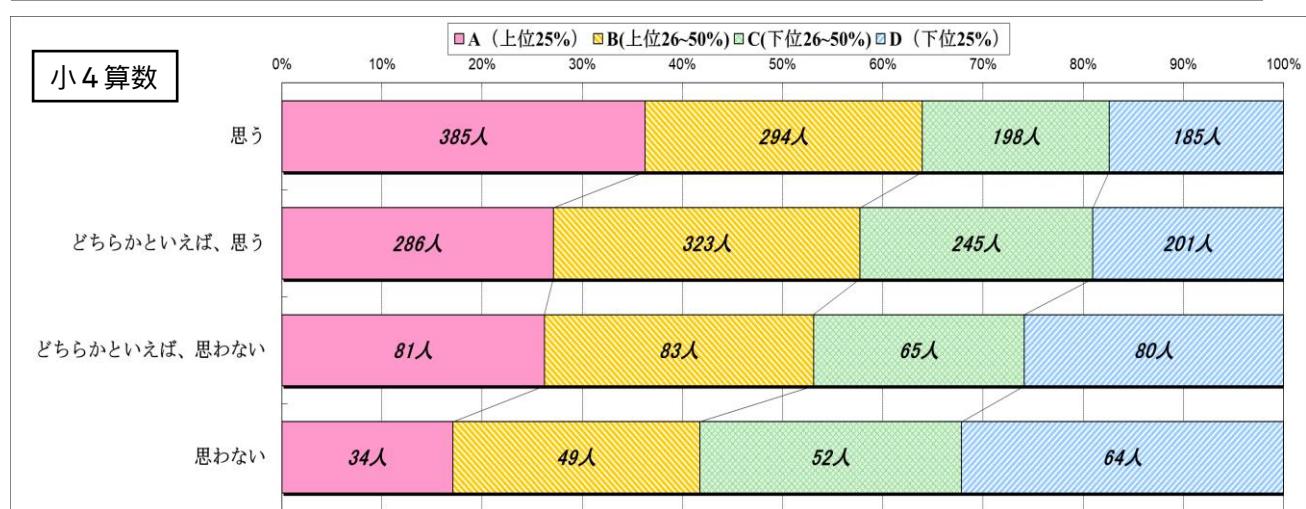
◎「学力が伸びた児童生徒」の算出について

1. 集計対象となる児童生徒の「学力のレベル」を数値化（「1-C」は「1」～「12-A」は「36」）し、前年度との差を計算している。
2. 令和6年度の学力レベルの数値が、昨年より1以上増加している児童生徒を「学力を伸ばした児童生徒」として算出している。

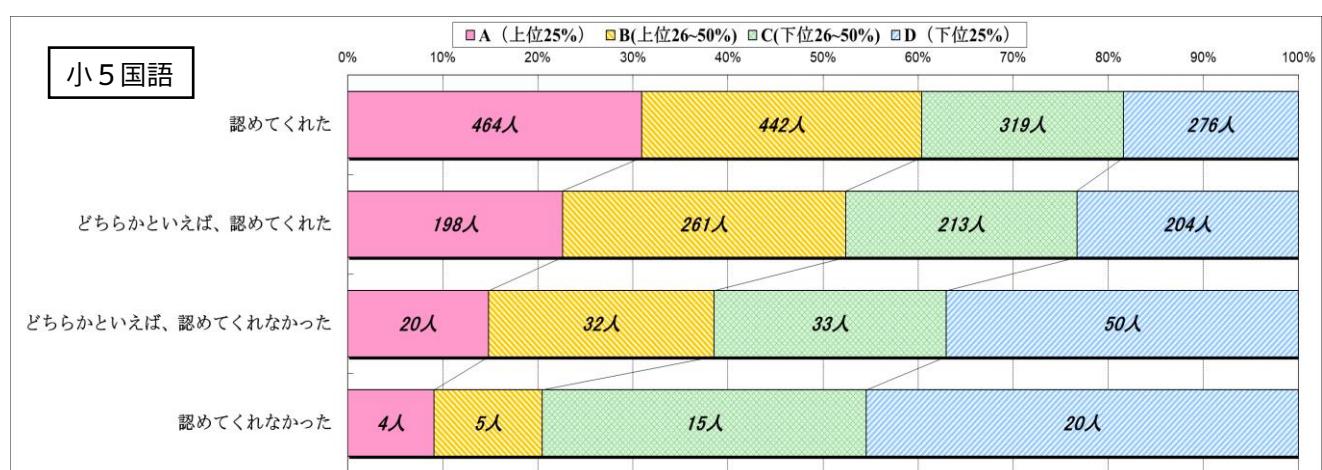
### (3) 児童生徒質問調査の回答と学力階層との相関関係

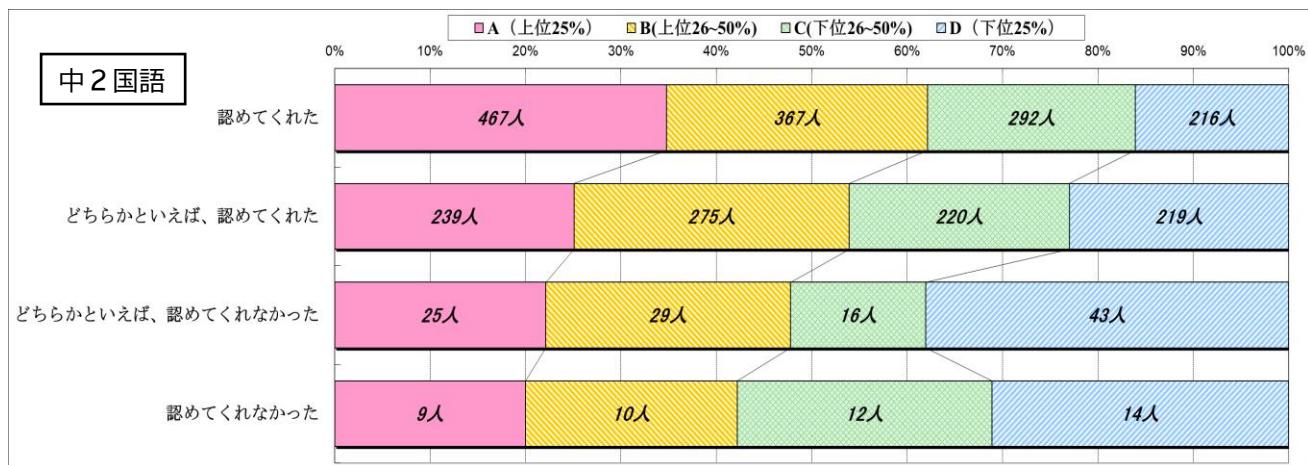
※ グラフは、顕著な結果が見られた学年と教科のものを例示した。

#### ①【問】「自分には、よいところがあると思いますか」とのクロス集計

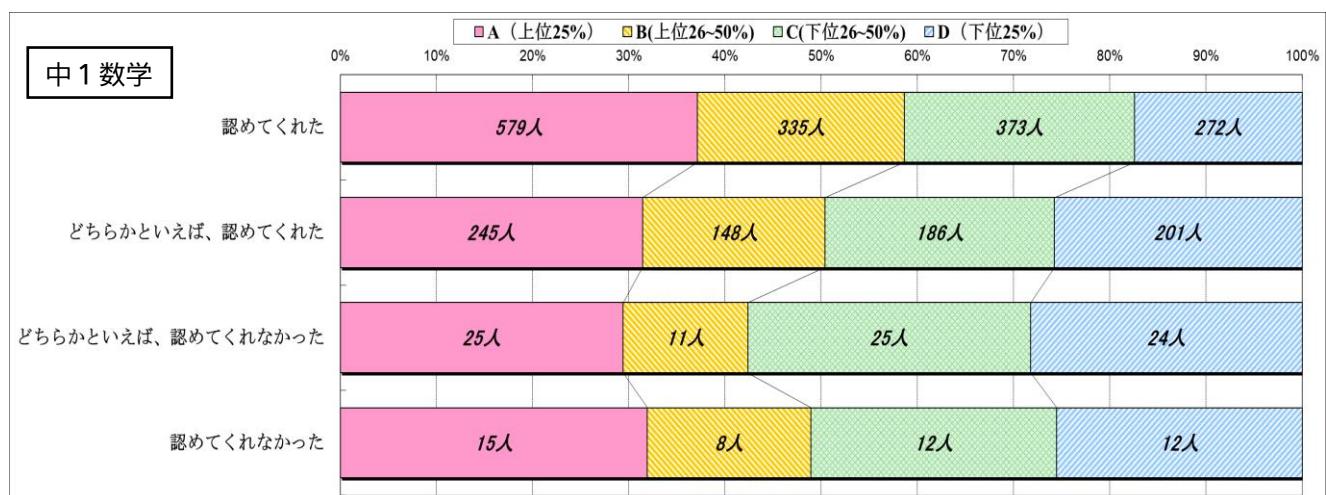
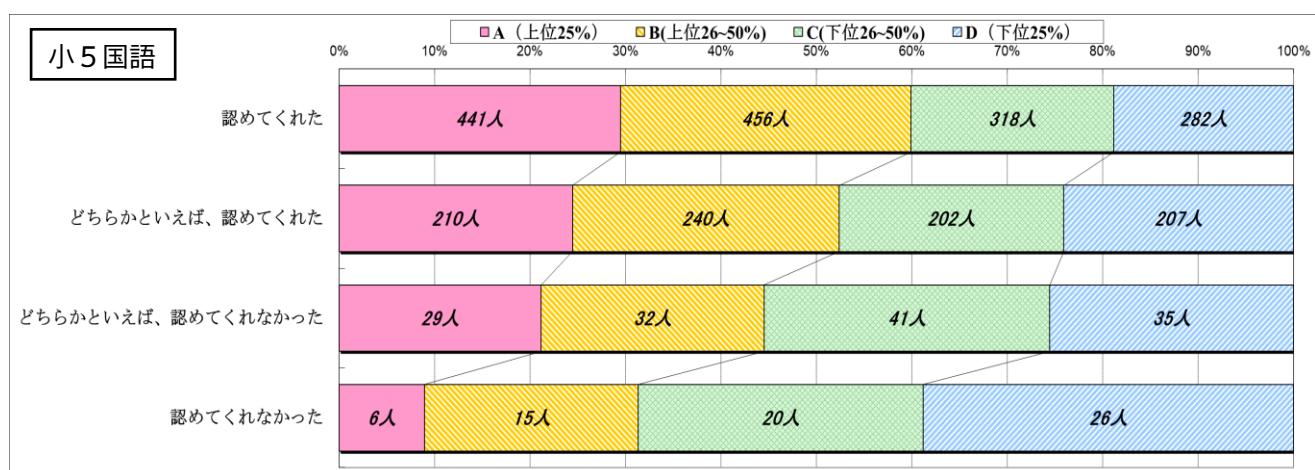


#### ②【問】「学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」とのクロス集計





**③【問】「学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか」とのクロス集計**

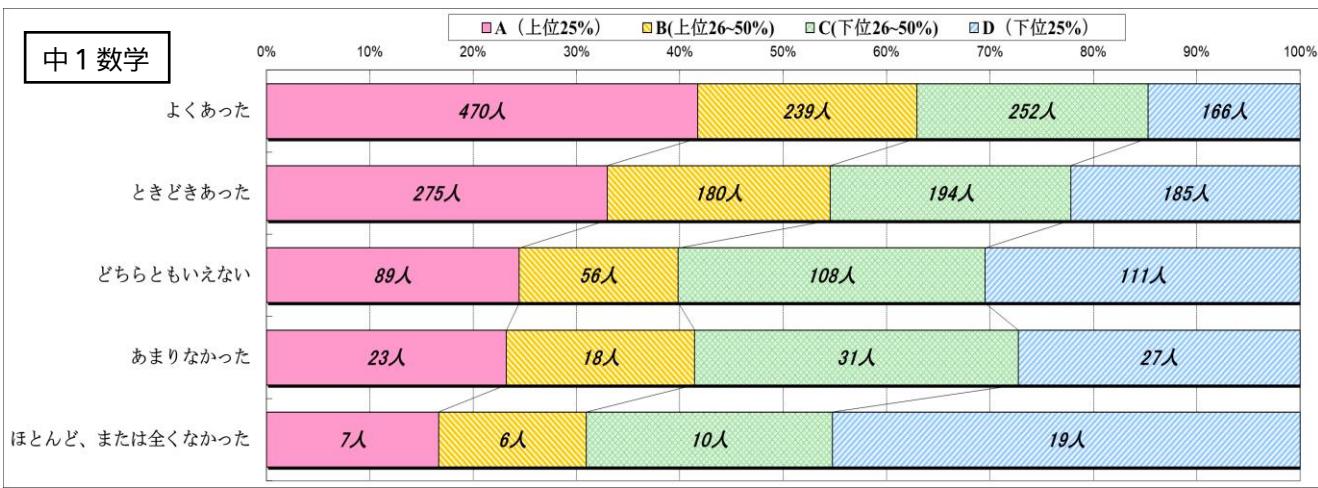
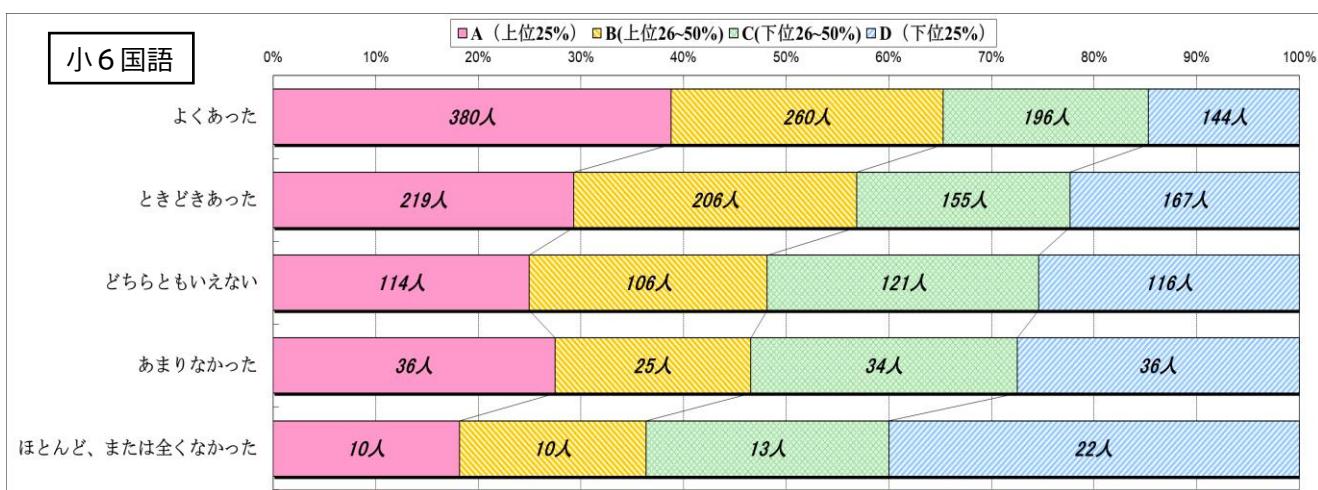


**【授業等改善のポイント1】**

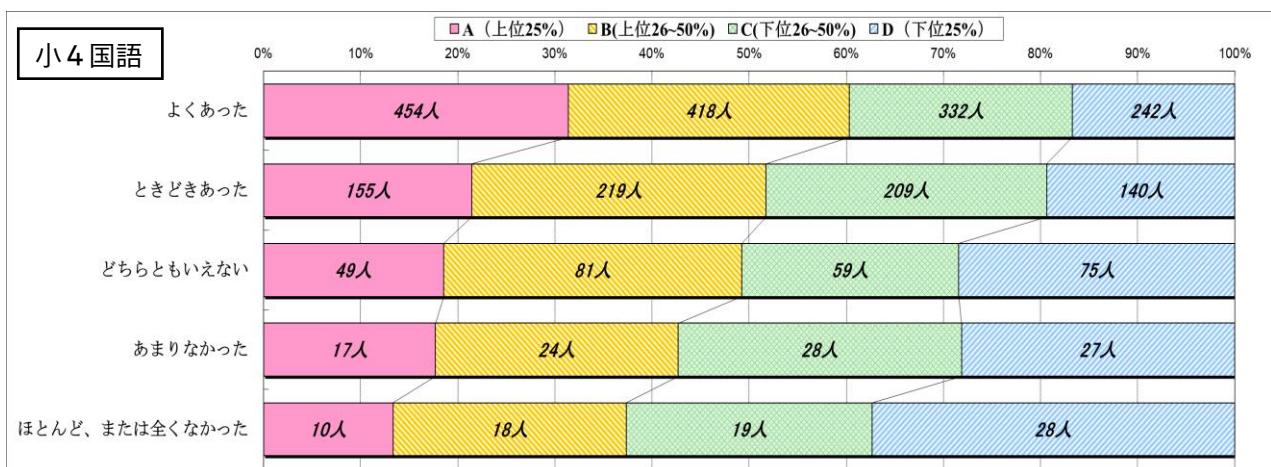
「自分によいところがある」、「先生は自分のよいところを認めてくれている」「友達は自分のよいところを認めてくれている」と回答している児童生徒ほど学力が高い傾向にある。

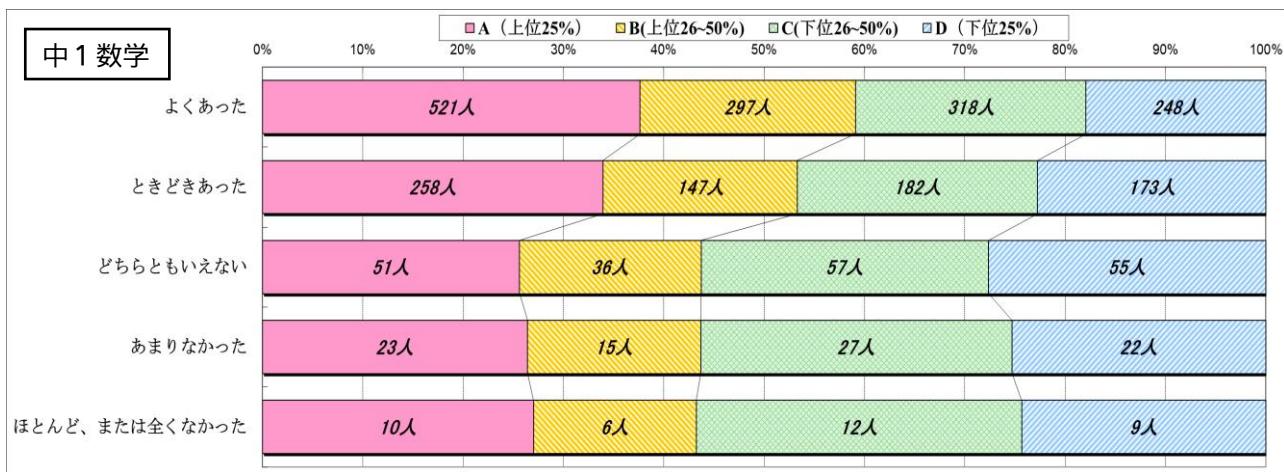
学級経営等において、教師が積極的に児童生徒のよいところを認めることや、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気を醸成することによって、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学力向上につながると考えられる。

④【問】「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりととったようになったことがありましたか」とのクロス集計



⑤【問】「グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと はどのくらいありましたか」とのクロス集計



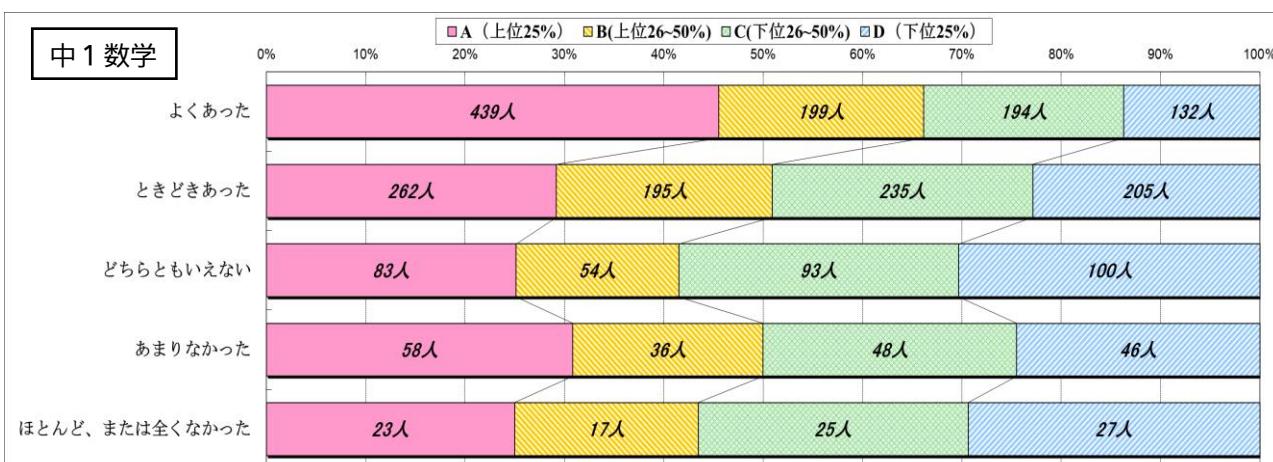
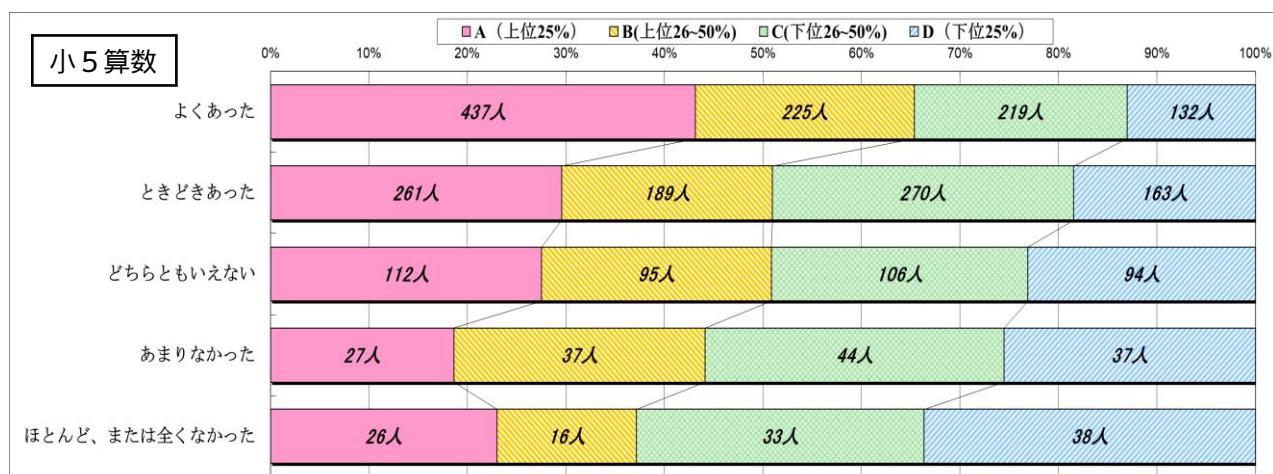


### 【授業等改善のポイント2】

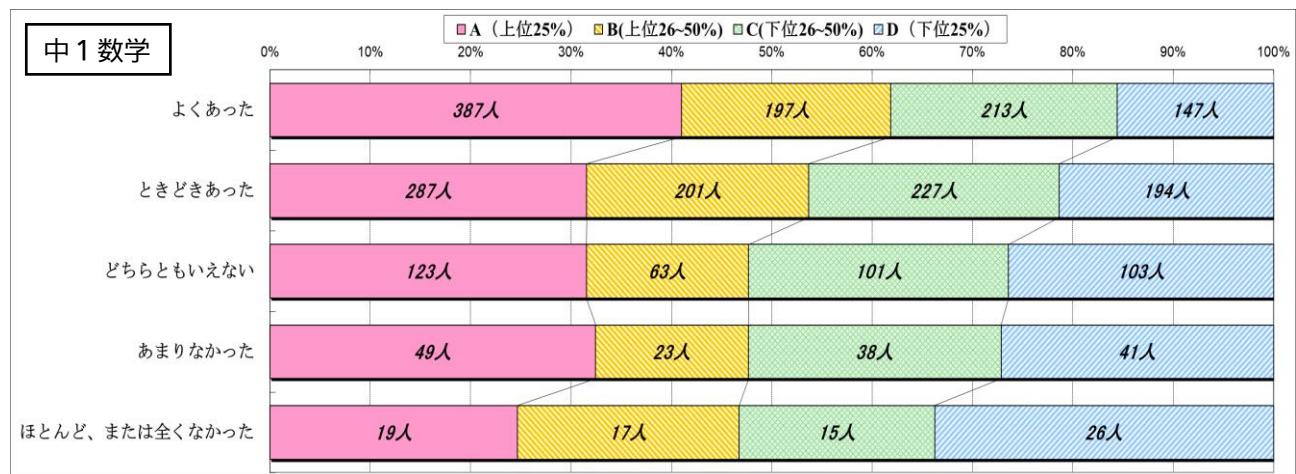
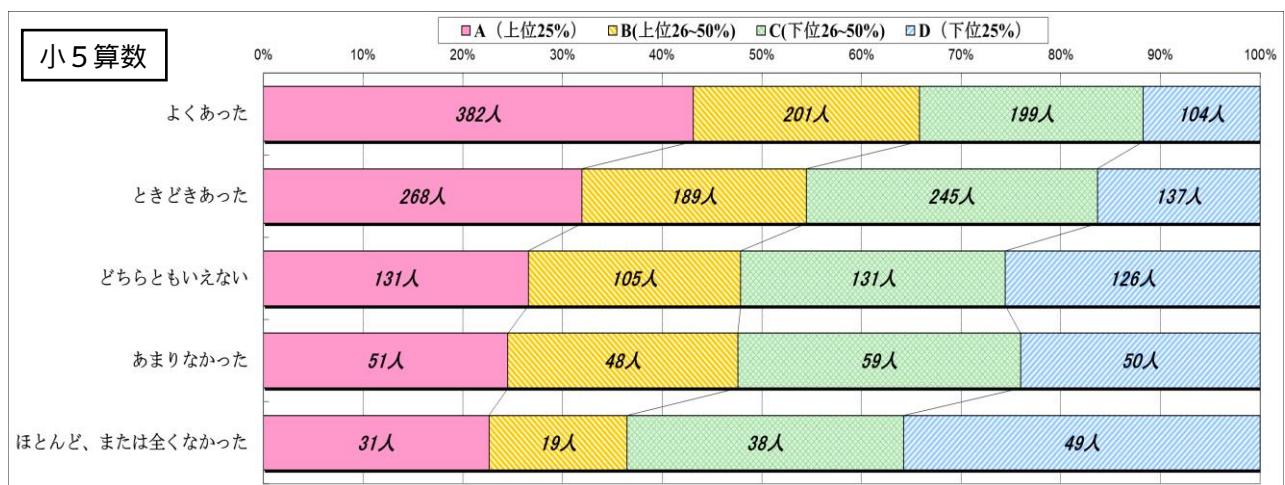
「話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりもてるようになった」と考えている児童生徒や「グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと」が多かったと感じている児童生徒ほど学力が高い傾向にある。

今後も、自分の考えをもち、他者との交流を通して自らの思いや考え方を広げ、深めたり、比較・検討したりする機会を教師がコーディネートしていくことが学力向上につながると考えられる。

### ⑥【問】「授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことはありましたか」とのクロス集計



⑦【問】「授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したことがどれくらいありましたか」とのクロス集計

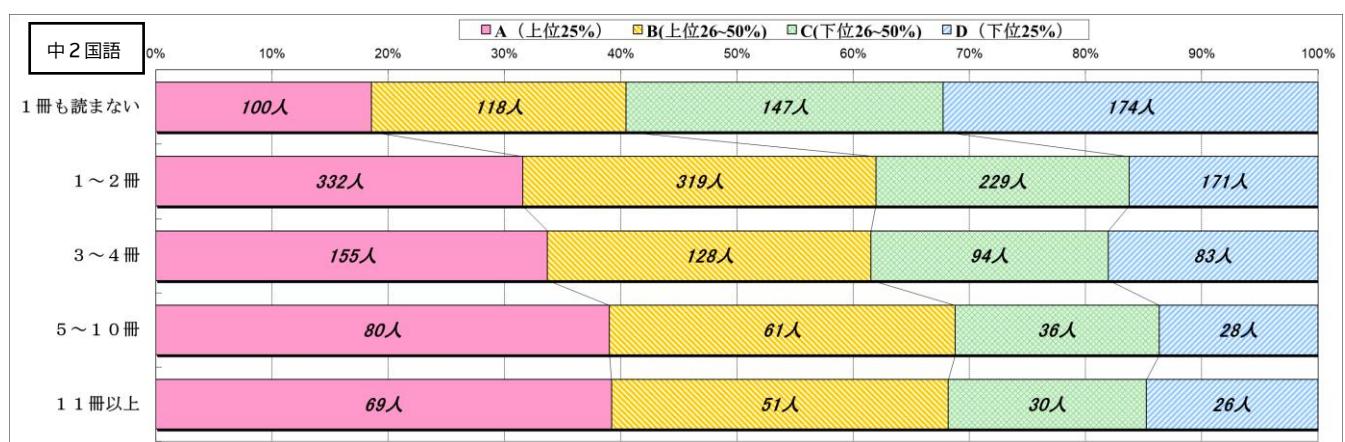
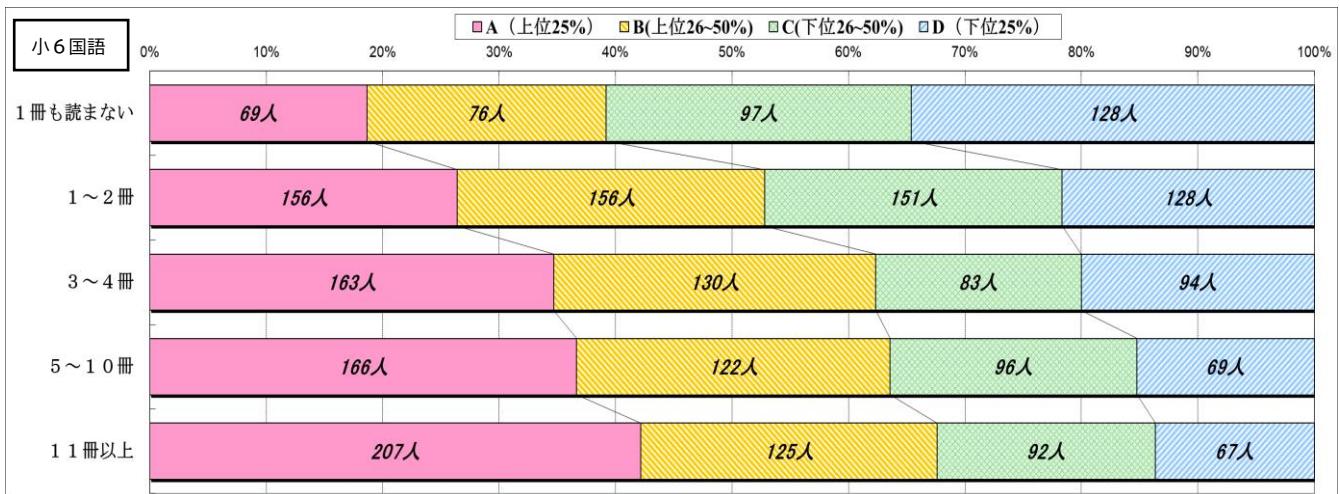


【授業等改善のポイント3】

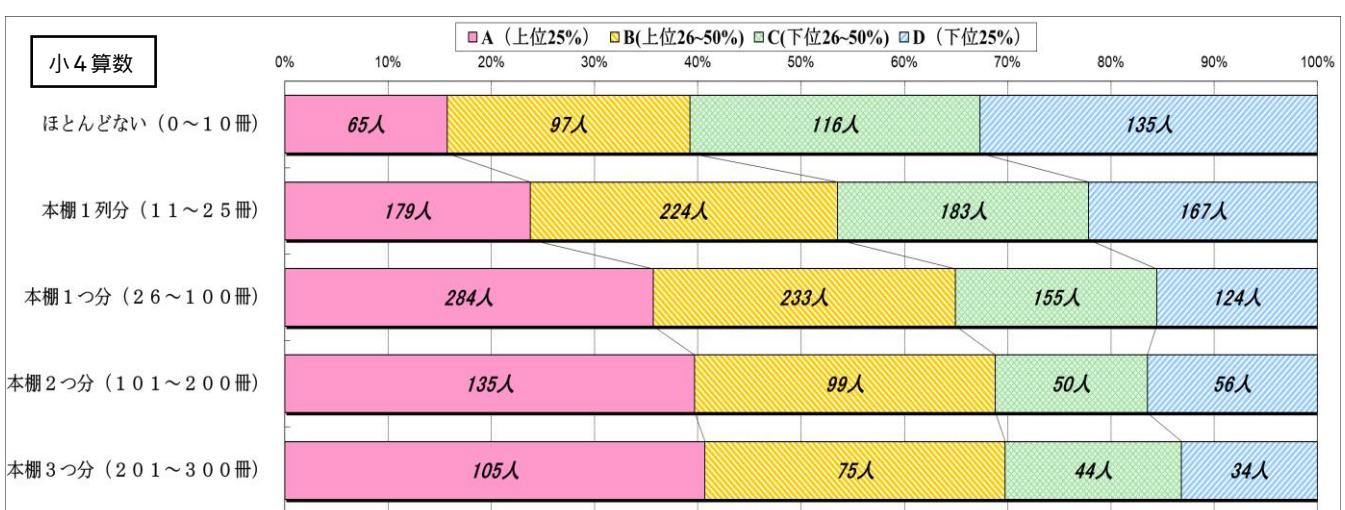
授業の始めに課題を把握し「何を学ぶのか」「何ができるべきよいか」を理解して学習に取り組むことや、学習内容を振り返って「何ができたか」「どのように学んだか」を確認することは、主体的な学びや深い学びにつながると考えられる。

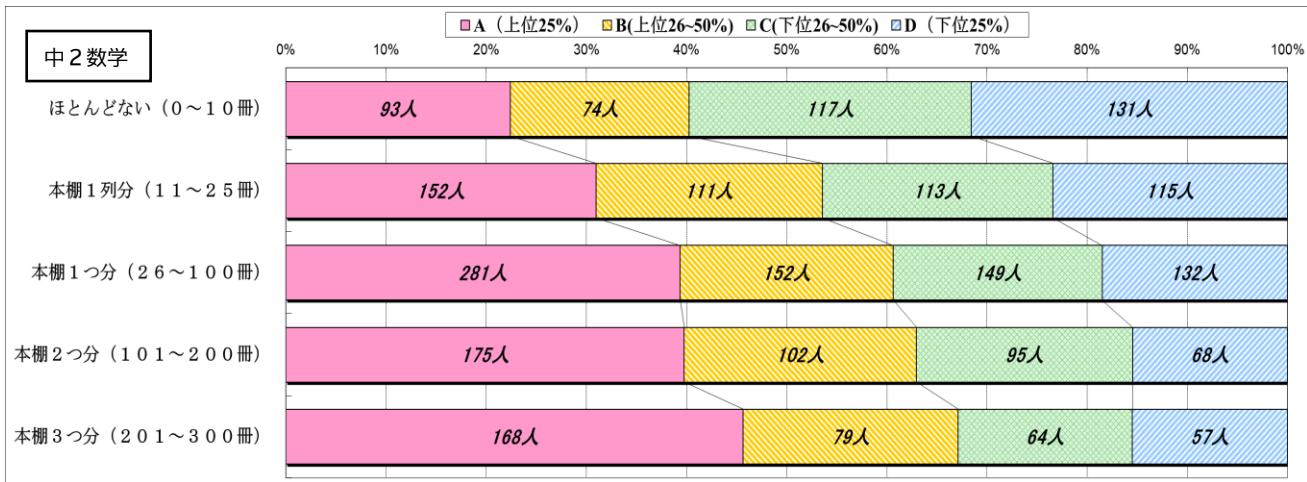
児童生徒の「問い合わせ」や「思い」などを焦点化して学習課題に設定することで、興味・関心や学習意欲を高めることが大切である。また、自分の言葉でまとめる時間の確保や自己評価・相互評価の活用等を通して、充実感や達成感などの学びの手応えを児童生徒に感じさせ、新たな学びに目を向けることができるようにする。

⑧【問】「1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）」とのクロス集計



⑨【問】「家には、自分や家人が読む本がどれくらいありますか」とのクロス集計





#### 【授業等改善のポイント4】

読書量が多い児童生徒ほど学力が高い傾向がある。

児童生徒が読書に親しむことができるよう、学校図書館長である校長のリーダーシップのもと、司書教諭、学校図書館担当教員、学校司書を中心に、**学校における読書活動の充実**を図ることが重要である。また、**各家庭と連携**し、家庭での読書機会の確保や地域の図書館の活用、親子読書の推進などに努めていくほか、タブレット端末を活用した郡山市電子図書館の利用促進も図っていく。

#### (4) 各学校における改善策等

- ① 各学校では、本市の結果分析の他、自校の正答率、学力を伸ばした児童生徒の割合、児童生徒質問調査の回答と学力階層との相関関係など、より詳細な分析を通して、「学力向上プラン」の見直しや日常の授業改善を図り、児童生徒一人一人の学力の向上に努める。
- ② 児童生徒に配付される個人結果票の「学習に関するアドバイス」や「教科の領域別正答率」などを活用し、正答率の高い領域をさらに伸ばしたり正答率の低い領域を克服したりするための指導を行う。その際、平均点や他の児童生徒と比較することが重要ではなく、自分の学力がどれだけ伸びているのかを知ることが重要であることを伝える。
- ③ 11月5日に開催の「第2回郡山市学力向上支援事業全体会議」において、中学校区で各学校の成果と課題を共有した。共有した情報をもとに小中学校が連携して指導方法の改善に役立てる。

## 【個人結果票のイメージ】

\* 令和6年11月6日に、福島県教育委員会が、ふくしま学力調査報告書（学力の伸びの状況、質問紙調査の結果等）を公表している。